

# 学校関係者評価 報告書

平成30年度

令和元年 7月

学校法人 **五大**



**横浜テクノオート専門学校**

学校関係者評価委員会



## 1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、本校の卒業生、保護者、企業等の役職員、地域住民などの中から選任された学校関係者評価委員が、本校が実施した「自己点検・評価」の妥当性を評価するものとする。また今後の学校運営に対して意見や助言を行うものとする。

## 2. 学校関係者評価委員

任期:平成30年4月1日～平成31年3月31日

<学外委員>      ◎:委員長      ○:副委員長      (五十音順・敬称略)

氏名	所属	
○ 安西 重昭	神奈川県自動車整備商工組合 経営委員	本校卒業生
◎ 大田 直輝	神奈川トヨタ自動車株式会社 お客様関連部 係長	本校卒業生
中西 洋次	一般社団法人 神奈川県自動車整備振興会 鎌倉支部 第二地区長	本校元教員

<学内委員>

氏名	所属
佐藤 健一郎	本校 校長
岩永 剛	副校長
久留島 勲	教 頭
佐藤 勇伸	自動車整備科 科 長
布川 義明	1級自動車整備科 科 長
久慈 卓	钣金塗装科 主 任
小林 聡一郎	国際エンジニア科 主 任
中村 利之	キャリアサポート課 課 長
鈴木 誠	入学広報課 課 長
飯田 知久	総務課 課 長

### 3. 自己点検・評価に対する意見、提案事項

#### 1) 学校の教育目標

「夢を持って社会人に」、「チャレンジ精神」というスローガンに基づき、実践的な技術や基礎知識の習得だけでなく、挨拶や礼儀作法など人間性の向上を重視した教育を進めている。

教育目標としては、「国家試験合格率100%」「就職率100%」「退学者0」を掲げている。このためには学生が自ら主体性を持って勉学に勤しむ環境づくりが欠かせないものであるとともに、企業・関連団体のご協力を得ながら進めていくことも重要である。

企業で必要とされる人材像を的確に把握し、教育カリキュラムに反映させていく。また教職員の資質向上のために、企業様のご協力のもと研修を実施する。

こうした、教育の質向上に対する取り組みについて保護者の方々にもご理解を深めて頂く。

最終的には企業に優秀な人材を送り、日本の自動車産業の発展に貢献することが弊校の教育目標である。

#### 2) 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

##### 1) 国際エンジニア科の成功

本格的な留学生対応 (基礎教育・日本社会理解・生活管理)

##### 2) 運営ノウハウの進歩

(1) 募集確保 募集方法変化対応、ルート開拓、企業奨学金

(2) 退学防止 学生個別管理、生活指導、楽しさ

##### 3) 本年強化事項

(1) 教員体制の強化(スキルアップ)

(2) 業界(車・学校)動向調査対応研究

##### 4) 学校力アップ計画

(1) 教育の質 アクティブラーニング、楽しさ、情報ノウハウ共有

(2) 運営の質 内部進学促進、離職率提言、部門間一体

(3) 人材の質 外部研修、企業人材交流

< 共通 > 自己点検評価(PDCAサイクル)の本格運用と記録(エビデンス)

### 3) 評価項目の達成及び取組状況

4:適切      3:ほぼ適切      2:やや不適切      1:不適切      NA:該当せず

#### I 自己点検評価項目

##### (1) 教育理念・目標

評価項目	評価
・ 理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
・ 学校における職業教育の特色は何か	4
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・ 理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	3

##### ① 評価の根拠

- ・ 「チャレンジ精神」を校訓とし、入学前よりオープンキャンパス参加者に対しても説明。教育理念や特色とともに説明している。  
しかしながら周知しても他校を選択する者もいる。
- ・ 入学後の在校生に対しても、授業中にも折に触れて重要性を説いている。
- ・ 教育課程編成委員より意見を聴取し社会のニーズ把握に努め、それをカリキュラムに反映させた。

##### ② 今後の改善方策

- ・ オープンキャンパス等を通じ、学校と企業様との結びつきの強さをさらに入学希望者や保護者に伝えていく。
- ・ 学校の理念とともに、自動車業界の将来性や役割の重要性等についても正確な情報を伝えることが必要。

##### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・ 校訓である「チャレンジスピリッツ」は、教室等に掲示されるとともに各教員から折に触れて重要性を指導している。
- ・ 社会経済等のニーズを踏まえ、新たな学科設置なども行っている。

## (2) 学校運営

評価項目	評価
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・ 人事、給与に関する制度は整備されているか	3
・ 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	3
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### ① 評価の根拠

- ・ 教職員全員が出席する全体会議において、決められた年度方針に基づいて運営されている。
- ・ 社内LAN環境があり、グループウェアを用いて職員間の情報共有をしている。
- ・ 月間のスケジュールはウェブ上でも確認できるようになっているが、更新が遅れることがあるため改善が必要。
- ・ 法人本部による取決めが、現場スタッフまで浸透するまでに時間がかかることもある。

### ② 今後の改善方策

- ・ 人事制度や就業規則について法人本部にて改訂作業を進めている。
  - ・ SNSなどを有効活用し、より詳細で頻度の高い情報発信に努める。
- なし

### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・ 理事会・評議員会の開催時期、頻度、議事内容等に問題は見当たらない。
- ・ 校長から各部門長で開かれる会議、また各プロジェクトでのミーティングなどを実施しており課題解決に向けて努力している。
- ・ 情報公開にも積極的であるといえる。国家試験合格率や退学率等もしっかりと数値を公表している。

(3) 教育活動 ① 1級自動車整備科

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
・資格取得の指導体制はカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員(本務・兼務含め)を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・国土交通省規定の基準を上回る授業時間数を確保している。
- ・資格取得についても体系的に取り組んで筆記試験合格率は改善した。
- ・職員の資質向上のための研修等について、積極的に受講している。
- ・学生への授業アンケート等を実施し、学生の希望や本音の把握に努めている。

② 今後の改善方策

- ・企業との連携をさらに深め、講師派遣等の依頼数を増やしていく。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

- 1級課程担当教員は全員が国家1級取得をしている。
- 企業や業界団体(整備振興会等)で開催される新技術講習会や研修会に積極参加し、常に新しい情報や技術の習得に備えている。  
またそれを授業にフィードバックし、学生への指導にも生かしている。

(3) 教育活動 ② 自動車整備科

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・資格取得の指導体制はカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員(本務・兼務含め)を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・国交省指定の一種養成施設の基準を上回る十分な授業時間数を確保している。
- ・一年次において、企業様のご協力のもと「インターンシップ(就業体験)」を実施している。
- ・明確な成績評価基準を持っている。

② 今後の改善方策

- ・外部関係者からの意見を即時に取り入れ改善につなげるしくみを構築する。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

- 整備科担当教員についてもほとんどが1級資格を所持しており、未取得の者も1級取得に向け努力している。
- 学生への国家試験に向けた指導はレベルが高く、毎年全国に比べてもかなり高い合格率を誇っている。
- 企業や業界団体で実施している研修や各種セミナーに計画的に参加して教員のスキルアップを行っている。

(3) 教育活動 ③ 钣金塗装科

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・資格取得の指導体制はカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	NA
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員(本務・兼務含め)を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・各事業者様よりヒアリングを行い、情報を更新しカリキュラムに反映させている。
- ・関連団体の総会に出席するなどし、連携強化に向けた動きをしている。

② 今後の改善方策

- ・企業や関連団体との連携をさらに強化し、新たな技術情報収集や、学生に工場見学の場を提供していただく。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

- 資格取得については「NA」としてはいるが、有機溶剤の取扱者など講習受講し  
全員合格を果たすなどもしている。
- 企業様の工場や設備などを定期的に訪問して見学させていただくことで  
新しい機材や設備、それを用いた技術などを習得している。
- 企業や業界団体などからヒアリングし、カリキュラムに採り入れるべき技術や  
学習内容を調査研究している。

(3) 教育活動 ④ 国際エンジニア科

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	2
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・資格取得の指導体制はカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員(本務・兼務含め)を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

① 評価の根拠

- ・ 授業内容については試行錯誤を繰り返しており確定していないところもある。
- ・ 企業ニーズについてはこれまで情報収集の場がなく把握できていない。

② 今後の改善方策

- ・ 就職先の安定的な確保のため、企業ニーズを把握する機会を作ることが重要であるとする。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

- 平成30年度より設置された新たな学科であり、質の高い留学生教育を行う意義は深いものがある。
- 留学生のみで構成し、3年間で2級整備士を取得させる学科を持つ学校は他にいくつか見受けられるが、YTCのように2年目以降は日本人と同じカリキュラムを受ける課程はほかには見られない。特長として生かしていくべきであるとする。

#### (4) 学修成果

##### ① 1級自動車整備科

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 評価の根拠

- ・退学率低減のため個別の面談回数を増やしたが退学者が出ってしまった。
- ・前年度の反省点を踏まえ一部手法を変更して試験対策を実施。結果として学科試験において100%合格を達成した。
- ・卒業生訪問を実施し、現況を把握するとともに拠点責任者の方からのヒアリングを実施した。SNSを通じて卒業生と連絡を取ったりもしている。  
またそこで得た生の業界情報を在校生にもフィードバックしている。

##### ② 今後の改善方策

- ・企業訪問で得た卒業生の情報や企業の情報を、データとして残し共有できるようにする。

##### ③ 特記事項

なし

#### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・学科設置初の「筆記試験100%合格」を果たしたことは大きな成果である。  
しかしながらいままでずっと100%であった口述試験で不合格者が出てしまったことは残念である。国家試験の実施側にも問題の設定などで課題があるのではないかと考える。
- ・卒業生の就職企業に定期訪問を行ったり、卒業生が訪ねてきたりと情報は収集できている。

#### (4) 学修成果

#### ② 自動車整備科

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	3
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	2
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 評価の根拠

- ・学生ごとの個別カードの活用や、面談頻度を上げるなどの対策を講じたが、退学者が多く出てしまった。
- ・卒業生訪問で状況把握はできているが、それを在校生への指導に活用できていない。
- ・資格取得については関係スタッフ全員が学生のモチベーションを維持させ、高い合格率に導いた。

##### ② 今後の改善方策

- ・卒業生訪問によって得られた各種の情報をデータによって共有し、在校生への指導に活用していく。  
ようにする。

##### ③ 特記事項

なし

#### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・国家試験に関しては学生のモチベーションをうまくコントロールし、試験当日にピークが来るようできていたように感じる。完全なる100%ではなかったが、高い合格率は誇れる部分ではある。
- ・卒業生の情報は、企業訪問時に得ている。その情報をいかに現役の学生に対して有効活用するかが今後のポイントとなるであろう。

#### (4) 学修成果

#### ③ 钣金塗装科

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 評価の根拠

- ・国家資格の取得はしないものの、有機溶剤取扱者資格の取得に向け学生に指導を行い、高い合格率を示すことができた。
- ・総合整備士コースの学生が整備科在籍時に退学するケースが多く見られ、科として対応はできていない。
- ・担当者による企業訪問で卒業生の状況把握はできている。

##### ② 今後の改善方策

- ・企業様の現場担当者との懇親の場を設け、生きた情報収集を行い、指導に反映させる。

##### ③ 特記事項

なし

#### <学校関係者評価委員からの意見>

.....  
・総合整備士コース在籍中から、進学後の姿をイメージさせるような対策を考え、  
中途退学を防止してほしい。  
.....

.....  
・钣金塗装業界からの求人も多いため、せっかく身に着けた技術を生かせる  
職場として紹介して欲しい。  
.....  
.....

#### (4) 学修成果

#### ④ 国際エンジニア科

評価項目	評価
・ 就職率の向上が図られているか	3
・ 資格取得率の向上が図られているか	3
・ 退学率の低減が図られているか	3
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 評価の根拠

- ・ 初年度1名の退学者も出さず卒業させることができた。  
就職活動の準備に時間がかかるため早めの指導を行いたいがそのための時間がとれていないのが実情である。
- ・ 過去の留学生の卒業後の活躍については担当者が訪問した際の情報では得ている。

##### ② 今後の改善方策

- ・ 1年制の科としてではなく3年間のコースとしての卒業生が出ていないため判断はできないが、早めの指導を実施したい。

##### ③ 特記事項

なし

#### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・ 初年度退学者を出していないのは評価できる。整備科に進学し、日本人と同じクラスに混ざってからの評価となる。
- ・ 整備科に進学した学生たちが就職活動をする年度となる。企業の考え方と、YTCの教育とを摺合せ、留学生に未来を切り開いてあげてほしい。

(5) 学生支援

① 1級自動車整備科

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	3
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

① 評価の根拠

- ・学校独自の奨学金制度はあるが、経済的事情を考慮したものではない。
- ・保護者向けに月に一度学校新聞を送付し、情報提供を行っている。
- ・家庭訪問を行うことも検討したが実施には至っていない。
- ・国家資格取得の養成機関のため、社会人向けの短期講座は設けにくい。
- ・学生募集活動を伴わない、高校生を対象にした職業体験の場を提供している(神奈川県専修学校各種学校協会主催「仕事の学び場」への参画)

② 今後の改善方策

- ・高校生を対象とした、職業について紹介をする「仕事の学び場」を開催しているが、自動車整備士の職業をさらに広く告知展開できる場を設けるべき。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

<p>・就職指導については担任と専任担当者とは協力してあっている。</p> <p>・保護者への情報提供は、月刊の学校新聞以外にも、担任と直接メールやラインを利用して行うこともできている。</p> <p>・企業からの委託で社員研修を行うこともあったが、カリキュラム上、受託できる期間は限定されている。</p>
---

(5) 学生支援

② 自動車整備科

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
・学生相談に関する体制は整備されているか	3
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	3
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・入学して1か月の時期に保護者面談を実施しているため、その後も保護者からの相談を受けやすい環境づくりはできている。
- ・独自の奨学金制度もあるが、経済的に支援が必要な学生向けではない。
- ・国家資格取得の養成機関のため、社会人向けの短期講座は設けにくい。
- ・学生募集活動を伴わない、高校生を対象にした職業体験の場を提供している(神奈川県専修学校各種学校協会主催「仕事の学び場」への参画)

② 今後の改善方策

- ・定期的な卒業生訪問により、現場の生の声を聴く機会とし、それを在校生への情報提供の機会とする。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への情報提供、保護者との情報共有はしっかりなされているように見受けられる。</li> <li>・保護者との連携のもと、学生の生活習慣等の指導も積極的である。</li> <li>・卒業生からの相談も受けており、再就職の紹介も行っている。</li> </ul>
---

(5) 学生支援

③ 钣金塗装科

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	3
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・就職については整備科在籍時からの情報が上がってくるが、钣金塗装科教員がもっと積極的に携わってもよいと考える。
- ・学生と個人面談する機会をもっと頻繁に設ける必要性を感じる。
- ・独自の学費支援制度はあるが、経済的な事情を考慮したものではない。
- ・学生募集活動を伴わない、高校生を対象にした職業体験の場を提供している(神奈川県専修学校各種学校協会主催「仕事の学び場」への参画)

② 今後の改善方策

- ・卒業生の活躍を整備科在籍時から進学予定者に伝え、進路に対する意識をしっかりと持たせるようにする。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

<p>・就職活動の開始時期の関係から、整備科在籍時に就職を決める学生が多いが、現在の「売り手市場」であれば、時期を遅らせて钣金塗装カリキュラムを少しでも経験してから活動させてもよいのではないかと。</p> <p>・神奈川県車体整備協同組合の会員企業の研修に、実習場や設備を貸出し、講師を務めたりなど協力関係を作っている。</p>
--

(5) 学生支援

④ 国際エンジニア科

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	3
・卒業生への支援体制はあるか	2
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	NA

① 評価の根拠

- ・留学生には学費の割引が当初より設定されているため経済的側面に支援しているといえる。
- ・健康管理としては日本人と同様の健康診断を受診させている。健康保険についての認識や自身の健康管理について今後も指導が必要。

② 今後の改善方策

- ・企業の外国人採用に対する考え方を知る機会、学生の実際の姿を見ていただく機会をつくり、国内就職先の確保に努める。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

・日本での生活について、さまざまな指導やサポートを職員がおこなっている様子がみられる。
・入学前や入学後に、留学生の実家(本国)まで職員が出向き、家庭訪問を行っている。
・いる。保護者や現地機関からの信頼も獲得している。
.....

## (6) 教育環境

評価項目	評価
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・ 防災に対する体制は整備されているか	4

### ① 評価の根拠

- ・ 実習場の広さ、教具教材の数量とも、国交省基準を上回る程度で整備されている。
- ・ 自動車整備科/1級自動車整備科1年次のインターンシップは、長年にわたる恒例行事となっており、受入企業も年々増加している。
- ・ 海外研修旅行も毎年実施しており、アジアのモータリゼーションを見学することで見分を広めている。
- ・ 災害時用に食料、飲料を備蓄している。防災訓練も実施している。  
両校舎への同時全館一斉放送のテストを実施。活用できることを確認した。

### ② 今後の改善方策

- ・ 技術の進歩に遅れを取らないよう、実習車両や教材の鮮度管理に配慮する。

### ③ 特記事項

なし

### < 学校関係者評価委員からの意見 >

- ・ 実習車両や教材については順次改廃に努め、鮮度を保っている。
- ・ 海外研修については東南アジアのモータリゼーションを肌で感じるとともに、  
現地学生との国際文化交流も行い、学生の知見を広げている。

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・ 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	3
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 評価の根拠

- ・ 高等学校訪問時に、自動車整備士の実態、国家資格の有用性、就職に関することなど真実を告知している。
- ・ オープンキャンパスの機会に、志望者やその保護者に対し自動車整備士の仕事内容や待遇、今後の展望までしっかり伝え、ミスマッチを防止している。
- ・ 学校案内資料・ホームページ等に、就職先や資格合格率などを明記しており、情報開示に努めている。
- ・ 学納金について、同分野他校・他分野校と比較しても妥当な設定となっている。

### ② 今後の改善方策

- ・ 一部資格への誤解もあるため、しっかりと説明機会を設け改善していく。  
企業人事担当者との同行訪問を行うことで連携体制をアピールする。

### ③ 特記事項

なし

### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・ 高等学校訪問時に、資格の有用性などを伝えている。専門学校教育について理解されていない若手教員も目立ってきているため、さらなる啓蒙が必要。
- ・ 一部ネットの情報等に惑わされないよう、自動車整備士の実情と展望をしっかり伝えてほしい。

## (8) 財務

評価項目	評価
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 評価の根拠

- ・ 神奈川県に対し前年度分の決算、会計監査報告を定期的に行っている。
- ・ 財務諸表を学校ホームページ上で公開している。

### ② 今後の改善方策

- ・ 情報公開に積極的な取組を行っている学校であることをさらに広めていく。

### ③ 特記事項

なし

### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・ グループで運営している他の事業所も含め、安定した財務基盤と言える。
- ・ 財務諸表についても神奈川県に提出しており、ウェブ上でも公開している。
- ・ 監査役による会計監査も実施されている。

## (9) 法令等の遵守

評価項目	評価
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
・ 自己評価結果を公開しているか	4

### ① 評価の根拠

- ・ 文部科学省、国土交通省、神奈川県それぞれの基準をクリアしている。
- ・ 学校として「個人情報保護方針」を定め、WEBにて公開している。
- ・ 全職員で自己評価にあたり、項目を意識して業務に臨んでいる。

### ② 今後の改善方策

- ・ 改正個人情報保護法に照らし、セキュリティ対策に注力する。  
校内で使用しているコンピュータについて、OSの入れ替えに伴うセキュリティ刷新を進める。

### ③ 特記事項

なし

### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・ 各法令に則り適正に運営している。
- ・ 将来的には第三者評価の受審を見据えた自己点検・評価を実施している。

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 評価の根拠

- ・地域の小中学生を対象に「チャレンジスクール」と称する仕事の体験をするイベントを年に2回定期開催している。(主催 神奈川県専修学校各種学校協会)
- ・学生のボランティアに対し、出席を認める制度はあるものの、「奨励」しているとまでは言えない。

### ② 今後の改善方策

- ・学校の設備や教材を活かし、業界団体や企業様の研修を実施した。さらに受入を増やすことで社会貢献とともに業界との結びつきを強化する。

### ③ 特記事項

なし

### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・業界団体や企業の研修に対し会場として貸し出しや講習受託を行ったりしている。
- ・学生募集を目的としない「職業体験」として、小中学生や高校生の受入も行っている。

## (11) 国際交流

評価項目	評価
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
・ 受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・ 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
・ 学内で適切な体制が整備されているか	3

### ① 評価の根拠

- ・ 事前に複数回の来校を促し、コミュニケーションを取り、本人の将来設計までを見据えて出願の許可を出している。
- ・ 学校の近隣に留学生向けの寮を完備しており、生活環境も含めて指導管理している。
- ・ 在学生、および出願予定者の出身本国まで出向いて家庭訪問を行い、家族環境を含め確認、管理している。
- ・ 東京入国管理局より在籍管理の適正校であると認められている。

### ② 今後の改善方策

- ・ 留学生の出身国は、政府の方針等にも影響を受けるものであるため、諸外国の情勢も含めて調査検討していく。

### ③ 特記事項

なし

### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・ 国際エンジニア科初年度を終えて無事是認が卒業した。整備科に進学してからがいろいろな課題が見えてくるであろう。2期生以降にどう生かしていくか、他校からも注目されているようなので頑張ってほしい。

## Ⅱ 職業実践専門課程認定要件適合評価

評価項目	評価
・ 教育課程編成委員会の委員構成、開催回数、教育課程の編成内容	4
・ 企業等と連携した実習・演習等の実施	4
・ 企業等と連携した組織的な教員研修の実施	4
・ 企業等と連携した学校関係者評価の実施・公表	4
・ ホームページにおける情報提供	4

### ① 評価の根拠

- ・ 引き続き9社2団体から委員にご就任いただいている。
- ・ 委員所属企業様のご協力のもと、技術講習会等を開催いただき、教員・学生とも受講している。
- ・ 評価報告書を学校ホームページに掲載し情報公開している。

### ② 今後の改善方策

- ・ 現在実施している以外にも、授業の枠内で企業様から講師を招くなど、連携した授業を模索する。また企業様の現場スタッフの方と教員との懇談の場を設け情報交換する。

### ③ 特記事項

なし

### < 学校関係者評価委員からの意見 >

<p>.....</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の自己点検評価コメント通り。特に意見なし。</li> </ul> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
---

### Ⅲ 国土交通省自動車整備士一種養成施設基準に基づく評価

評価項目	評価
・ 道路運送車両法 第1条に基づき自動車整備士の養成を目的としているか	4

#### ① 評価の根拠

- ・ 一種養成施設の基準どおり課程を設置しており、関東運輸局 神奈川運輸支局への定期報告を実施している。(教材の改廃、施設の変更、国家資格の合格率 等)  
また支局の立ち入り検査も受けており、大きな指摘事項もない。

#### ② 今後の改善方策

- ・ 今後も基準を逸脱しないよう適切な管理を続ける。

#### ③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

<p>.....</p> <p>・学校の自己評価通り。特に意見なし。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
---

### Ⅲ－(2) 学校運営

評価項目	評価
・ 1. 養成施設の沿革及び学校の組織図	4
・ 2. 学則又は規則及び細則	4
・ (3)課程の名称	4
・ (4)定員	4
・ (5)修行の年限又は入学時期及び卒業時期	4
・ (6)入学資格	4
・ (7)休日及び休業	4
・ (8)始業、終業時間及び1教育単位時間	4
・ (9)当該改訂修了の教育時間	4
・ (10)成績判定基準(出席日数及び合格点等)	4

#### ① 評価の根拠

- ・ すべて国交省の自動車整備士養成施設の基準に基づいた運営をしている。

#### ② 今後の改善方策

- ・ 定員の確保については課題が多い。企業様や業界団体とも連携し、草の根活動から自動車整備士の社会的地位向上や待遇改善にも注力する。

#### ③ 特記事項

なし

#### <学校関係者評価委員からの意見>

<p>.....</p> <p>・学校の自己評価通り。特に意見なし。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
--

### Ⅲ－(3) 教育活動

評価項目	評価
・ 6. 教育科目別時間配分表	4
・ I-2-2 教育計画(二級)	4
・ I-2-2 教育計画(一級)	4
・ 7. 教育計画表	4
・ 2. 学則又は規則及び細則	4
・ (9) 当該課程修了の教育時間	4
・ (10) 成績判定基準(出席日数及び合格点等)	4
・ 4. 教育を行う者(指導員)の一覧表	4
・ 5. 教育を行うもの(指導員)の名簿	4

#### ① 評価の根拠

- ・ 神奈川陸運支局届出「授業計画」を提出している。
- ・ 同「指導員名簿」を指定書式で備えている。
- ・ 在学生や保護者に対して、月次の教育計画が閲覧できる体制になっている。

#### ② 今後の改善方策

#### ③ 特記事項

なし

#### <学校関係者評価委員からの意見>

<p>.....</p> <p>・学校の自己評価通り。特に意見なし。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
--

### Ⅲ—(4) 学修成果

評価項目	評価
・ 養成施設の報告書	4

① 評価の根拠

- ・ 神奈川運輸支局へ定期的に報告を行っている。  
(国家試験結果がすべて出そろった5月中旬)

② 今後の改善方策

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

<p>.....</p> <p>・学校の自己評価通り。特に意見なし。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
---

### Ⅲ—(6) 教育環境

評価項目	評価
・ 必要設備等一覧表	4

① 評価の根拠

- ・ 神奈川運輸支局へ定期的に報告を行っている。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

なし

< 学校関係者評価委員からの意見 >

<p>.....</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学校の自己点検評価通り。特に意見なし。</li></ul> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
---

### Ⅲ—(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>道路運送車両法の一様養成施設設置基準に基づく学校運営を行っているか (実績報告、変更届等の提出等を含む)</li> </ul>	4

① 評価の根拠

- ・ 神奈川運輸支局に定期的に報告を行っている。
- ・ 一様養成施設設置基準を全教職員が閲覧できるようになっている。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

<p>.....</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価通り。特に意見なし。</li> </ul> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
--

IV 自動車整備士分野の教育の質保証・特徴化に向けた  
取り組み内容の評価

(3) 教育活動

評価項目	評価
・ 教員の専門性向上、教育力向上に向けた特徴ある取り組みや成果	3
・ 教育の質保証、質向上に向けた教育内容やシステムにおける特徴ある 取り組みや成果	3

① 評価の根拠

- ・ 企業や自動車関連団体、JAMCA、専門学校協会、キャリア教育財団等が主催する研修を計画的に受講している。
- ・ アクティブラーニング等、学生自らが能動的に考える授業を一部採り入れた。

② 今後の改善方策

- ・ アクティブラーニングを一部授業からさらに他の科目にも拡げて展開する。

③ 特記事項

なし

<学校関係者評価委員からの意見>

<p>.....</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の資質向上の研修は、さらに積極的に受講してほしい。</li> </ul> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
---

#### IV—(4) 学修成果

評価項目	評価
・ 国家資格の合格に向けた特徴ある取り組みや成果	3
・ 就職率、就職の質向上に向けた特徴ある取り組みや成果	4

##### ① 評価の根拠

- ・ 国家試験対策授業では、分野別の集中授業を行い苦手部分の克服を行うなどの取組を行っている。
- ・ 放課後に少人数でのクラス分けを行って担当教員を配置するなどレベル別の対策授業を実施している。
- ・ 就職指導担当者と担任が同席して進路面談を行い、本人の希望と適性をバランスさせた斡旋を行っている。
- ・ 企業様を招いての説明会に、本校卒業生による講話や車両の見取りなどを採り入れ学生に広範な情報提供を行っている。

##### ② 今後の改善方策

- ・ 国家資格について、1級・2級知』高い合格率を得ることができたが、この成功事例をしっかりと分析して次年度に繋げることが課題である。

##### ③ 特記事項

なし

##### <学校関係者評価委員からの意見>

<p>.....</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家試験について本年度も高い水準で合格させた実績は評価できる。</li> </ul> <p>.....</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職指導についても毎回工夫をして「学生ファースト」が徹底されている。</li> </ul> <p>.....</p>
---

## IV—0 全般

評価項目	評価
・ その他学校としての特筆すべき特徴ある取り組みや成果	4

### ① 評価の根拠

- ・ 幅広い業種・職種への就職あっせんができた。単一メーカーや現場の自動車整備士に偏らず広く学生の希望や業界ニーズをとらえた結果であるといえる。

### ② 今後の改善方策

- ・ 企業との連携授業を採り入れるなど新たな試みを取り入れていく。

### ③ 特記事項

なし

### <学校関係者評価委員からの意見>

- ・ いわゆる「非メーカー校」だからこそできる、教材や実習車両の多様性、そして就職先の幅広さは今後も特長として伸ばしてほしい。学校を持たない企業からのニーズは非常に高い。企業や団体との連携・協力を深め、学生のためになる教育を行ってほしい。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

### 1. 国際エンジニア科の成功

本格的な留学生対応(基礎教育・日本社会理解・生活管理)

- 初年度ながら定員充足し、全員が卒業したため目標については達成と捉えてよい。しかしながら運営を通じて様々な課題が見えてきたことも事実であり、カリキュラムへの反映や他科へのフィードバックによりさらに充実した学科としたい。

### 2. 運営ノウハウの進歩

1) 募集確保 2) 退学防止

- 企業連携を深め、同行しての高校訪問などを積極的に実施。高校内部でも企業奨学金についての理解を深めることができたが実績数値は未達。在校生の退学については面談機会の増加等を図ったが、前年度比低減はできていない。

### 3. 本年強化事項

1) 教員体制の強化(スキルアップ) 2) 業界(車・学校)動向調査対応研究

- 前年度に比べ教員を増員して体制強化を図った。学生一人ひとりへの気配りができるようになった。個々のスキルアップについては研修受講などで対応。自動車業界や他の学校種等の情報も、官公庁や業界関係者からの意見聴取の機会に収集し研究を行った。

### 4. 学校力アップ計画

1) 教育の質 … アクティブラーニング、楽しさ、情報ノウハウ共有

前年度同様アクティブラーニングは1級科の一部授業で採用したが課程の特性上全体に広げることが難しい。主体的に授業に取り組めるよう楽しさのある授業運営に注力した。

2) 運営の質 … 内部進学促進、離職率低減、部門間一体

1年次在学中に1級整備士の将来性・有用性を説き、2年制から4年制への内部進学を促進した。科を越えた「交換授業」も行っており、学生だけでなく職員間の相互理解も進んでいる。

3) 人材の質 … 外部研修、企業人材交流

各所で実施される講習・研修を計画的に受講した。受講報告書や配布資料などを回覧するなど共有化を図った。企業との人材交流について、教育課程編成委員会で意見は出たものの、双方が多忙で勤務体系も異なり、実現には至っていない。

○ 国家試験合格率	自動車整備科	2級ガソリン	98.50%	(66/67)
		2級ジーゼル	98.50%	(66/67)
	1級自動車整備科	1級学科	100.00%	(9/9)
		1級口述	77.78%	(7/9)
○ 就職内定率	全科(国際エンジニア科は進学前提のため除く)			100.00%
○ 中途退学率	自動車整備科	7.69%	(130 ⇒ 120	10名)
	1級自動車整備科	1.96%	(51 ⇒ 50	1名)
	钣金塗装科	0.00%	(25 ⇒ 25	0名)
	国際エンジニア科	0.00%	(20 ⇒ 20	0名)

<全体を通じて>

- 本年度の大きな出来事と言えばやはり「国際エンジニア科」の設立である。  
開設初年度だが、日本語学校からの引き合いはとて強く、大勢の希望者が  
来校した。その中から選抜された1期生はみな志が高く、日本での就業に  
高い意欲を感じる。  
この春から1期生は自動車整備科に進学し日本人とともに同じカリキュラムを  
学ぶことになる。そこで出てくる課題をいかに2期生の指導に活かしていくか  
にかかっている。さらなる進化に期待したい。
- 自動車整備士や钣金塗装士を目指す若者は年々減少している。そんな中でも  
オープンキャンパスに来校した高校生たちに対してどのように自動車の魅力や  
自動車整備士・钣金塗装士という仕事の重要性を知らしめていくか、YTCを  
学びの地として選んでもらうか考え、毎年新しいことに挑戦してほしい。  
その際、多くのご協力いただいている企業様の意見に耳を傾け、参考にして  
やっていただきたい。

以上